

令和6年度栃木県立大田原高等学校 教職員自己評価 結果(2024/12 実施)

評価項目		評価の観点
1	校務分掌の職務内容の見直し	学校内規と校務分掌を見直し、本校生に適した学習環境づくりに努めることができたか。
2	単位修得のための学校外制度の活用	三修制や高校卒業程度認定試験を紹介し、生徒の実情に即した単位修得の機会を増やすことができたか。
3	生徒の特性に合わせた教育課程の編成と実施	生徒の生活実態・興味・関心・進路等に対応した教育課程を編成・実施できたか。
4	開かれた学校づくり	(1) 学校行事ごとに学校HPを更新し、学校に関する情報発信に努めることができたか。
5		(2) 授業公開等の機会を設け、保護者の学校への関わりを深め、開かれた学校づくりに努めることができたか。
6	学校行事への積極的な取組と参加率の向上	生徒の意見を取り入れた魅力ある行事を計画し、参加率の向上を図れたか。
7	校外行事への積極的な参加奨励	生徒が校外行事の意味を理解するとともに、生徒が参加しやすい日程を組むことができたか。
8	交通事故防止	生活安全講話や生徒による「交通安全宣言」を行う等、様々な機会に交通安全について指導し、交通安全意識の高揚を図ることができたか。
9	基本的生活習慣の確立	(1) 欠席者・遅刻者が減少したか。
10		(2) 生徒に規範意識が身についたか。
11	正しい人間関係の構築(生徒同士・生徒と教師間)	(1) 生徒に挨拶をする習慣が身についたか。
12		(2) 協調する心を育むことができ、コミュニケーションを積極的にとることができたか。
13	いじめ防止対策	いじめの早期発見、いじめの再発を防止するための取組ができたか。
14	人権意識の向上	生徒の人権意識や他人を思いやる心が育ったか。
15	教科指導の充実	生徒個々の出席状況・理解度を把握し、適切な教材・教具の開発を行うなど細やかな教科指導を行うことができたか。
16	学習環境の整備	(1) 夜間でも安心して学べる環境整備に努めたか。
17		(2) 地域の人的・物的資源を活用するなどして、幅広い学校教育を進めることができたか。
18	国際理解教育の推進	世界と日本との関わり等の学習を通じて、互いの国の文化や価値観等を認め合うことができたか。
19	年次・年齢を越えた人間関係の構築	普段の学校生活の他、委員会活動、学校行事、定通総体に向けた各部署での練習等を通して、団結・協力することができたか。
20	職業意識の向上	(1) 「キャリア教育」の趣旨を、生徒や保護者に十分に伝えることができたか。
21		(2) 進路担当と担任が連携をとりながら、職業に関する最新の情報を提供できたか。
22	進路への早期対応	(1) 自己の進路選択に主体的に取り組む態度を育成できたか。
23		(2) 生徒の進路希望を把握するとともに、進路担当と担任が連携を取りながら最新の情報を提供し、進路実現を支援することができたか。
24	心身の健康増進	(1) 各健康診断の意義を理解させ、受診率を高めることができたか。
25		(2) 個別の健康指導を徹底し、欠席・早退を少なくすることができたか。
26		(3) 適切なアドバイスができるような教育相談の充実を図ることができたか。
27	食事マナーの向上	(1) 給食の時間や家庭科の授業をとおして、マナーの指導ができたか。
28		(2) 常に生徒に声かけを行い、マナーの徹底を図ることができたか。
29	保護者との連携強化	(1) 学校HPや通知等をおとして、学校に関する情報を保護者に提供できたか。
30		(2) PTA活動や保護者面談をおとして、保護者の学校への理解が深まったか。
31	渉外団体との良好な関係形成	商工会議所等との連携を深めることにより、教育振興会を円滑に運営できたか。
32	危機管理	(1) 関係機関との連携体制が構築されているか。
33		(2) 危機管理マニュアルを活用しているか。また、常に様々な状況への対応を互いに考えているか。

A: かなり満足できる B: ほぼ満足できる C: 努力が必要である D: 改善が必要である
教員自己評価①

左から、“A”、“B”、“C”、“D”の順